

# 「佐渡金銀山」保存・活用行動計画

平成28年3月

新 潟 県  
佐 渡 市

# 目次

第1章 保存・活用行動計画の目的と実施	3
第2章 佐渡金銀山の価値	6
I.世界遺産登録の意味	7
II.構成資産概要	8
第3章 佐渡金銀山の保存管理	14
第4章 世界遺産登録に向けた来訪者の受入体制整備	17
I.アクセスルートの整備・来訪者の誘導等	18
II.ガイダンス機能・ガイド体制の充実	21
III.安全対策の徹底	23
IV.ホスピタリティの醸成	25
V.来訪者マナーの醸成	28
第5章 世界遺産を核とした魅力ある地域づくり	30
考え方	31
I.佐渡金銀山のブランドイメージの確立	32
II.伝統文化・地場産業の振興	34
III.佐渡金銀山・関連地域資源を活用した島内及び全県的な魅力の発信	36
巻末付録	39
各種懇談会	40

# 【第1章】 保存・活用行動計画の目的と実施

## 1. 策定の目的

新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡は、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として平成22年にユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載され、正式な世界遺産候補となり、早期の世界遺産登録を目指しています。

登録後は、遺跡への注目が一層高まり、来訪者の増加等が予想されますが、そうした環境変化を遺跡や地域住民にとって有益なものとし、その価値を守り、後世に伝えていくには、多くの人の理解と協力が必要です。

この計画は、世界遺産条約40周年記念最終会合で採択された京都ビジョン「地域社会が連携し、遺産の保護と、長期的に持続可能な観光の両立」、「世界遺産から得られる利益を地域社会が共有する仕組みづくり」の理念と、ユネスコへ提出する「包括的保存管理計画」に基づき、行政と民間の協働によって、遺跡を未来へ引継ぎ、活用を図っていくことを目的に策定するものです。

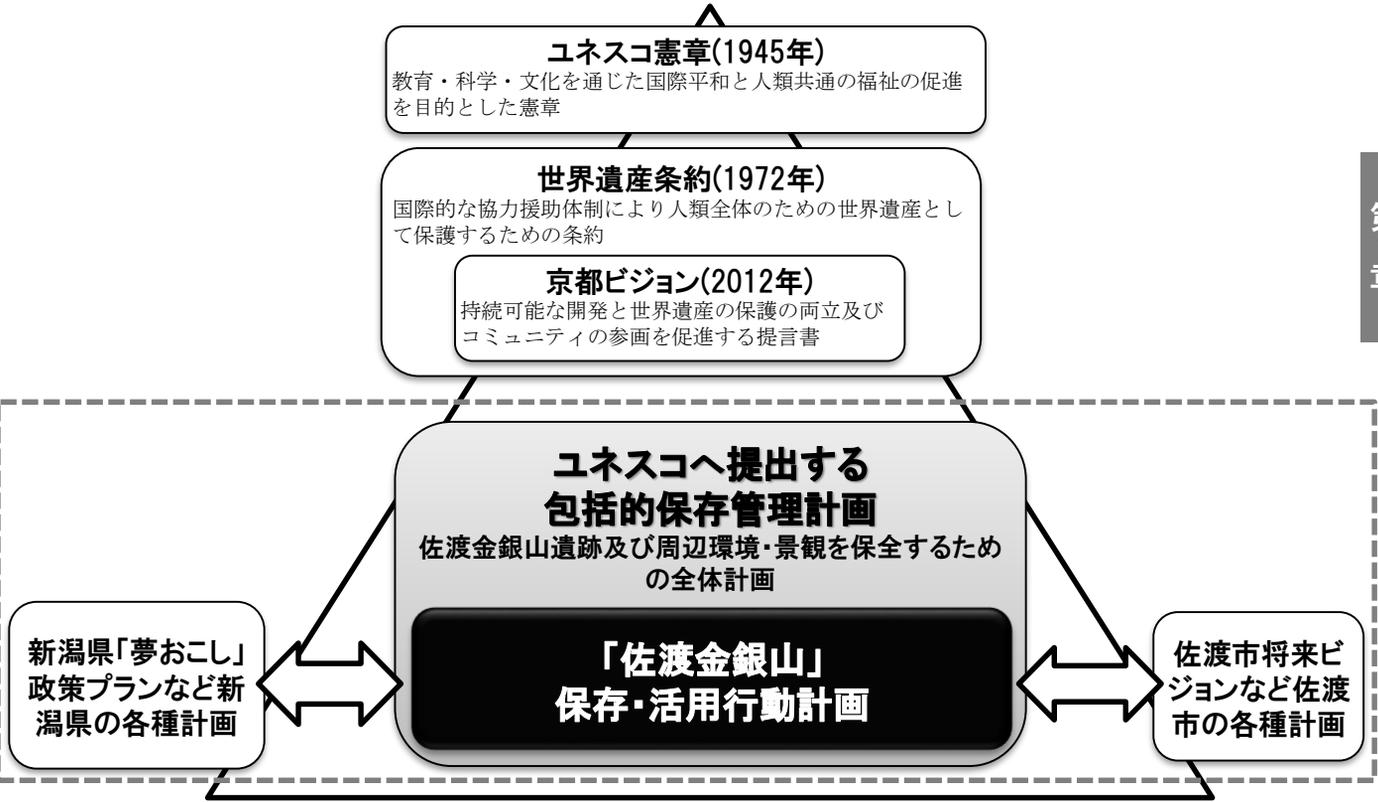
### 【取組の方向性】

佐渡金銀山の世界的価値は、島内だけで育まれたものではなく、島外との長い交流によって形成されてきたものであり、県内各地と歴史的・文化的に深くつながっている

- ◎ 佐渡金銀山の世界的価値を知り、守り、多くの人たちに伝え、未来へ継承していく責務を、佐渡市民だけでなく、新潟県民全体で担っていくよう取組を進める
- ◎ 佐渡金銀山と、各地域との「つながり」を発掘し、積極的に活用することで、佐渡だけでなく、新潟県全体の魅力向上につなげていく

## 2. 個々の行政計画等との連携

本計画の策定に当たっては、「ユネスコ憲章」、「世界遺産条約」及び持続可能な開発と世界遺産の保護の両立を重視する「世界遺産条約採択40周年記念最終会合京都ビジョン」との整合性を十分に考慮しました。ユネスコ憲章の考え方を礎石とし、世界遺産条約に準じ、国境を越えた人類全体で遺産を未来に引き継いでいくことで、ユネスコ憲章の前文にある「人の心の中に平和のとりで」を築くことを目指します。また、「新潟県「夢おこし」政策プラン」等の新潟県の各種計画と「佐渡市将来ビジョン」等の各種計画と連携していきます。



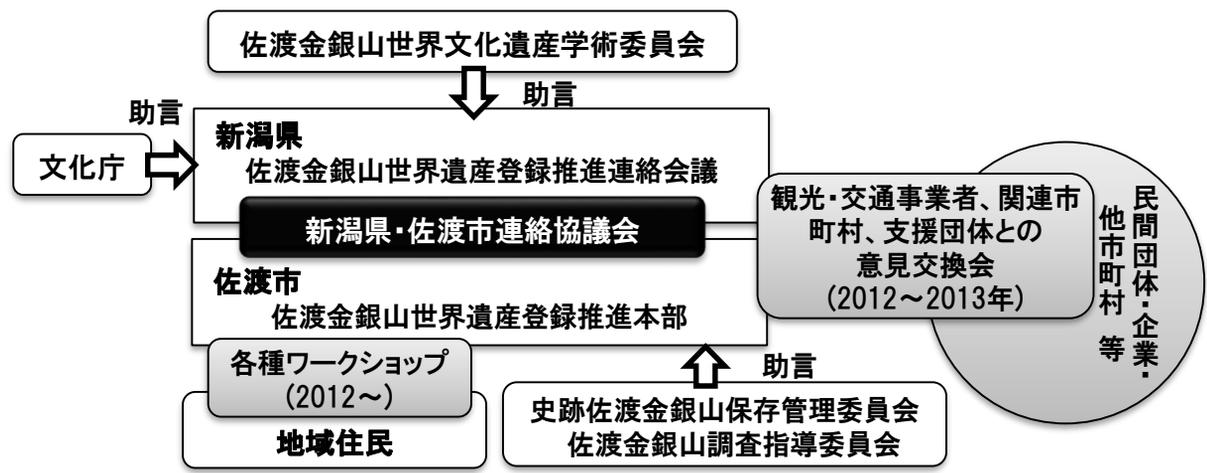
### 3. 計画の対象期間

本計画は、平成28年度から令和4年度までの7年間を対象期間とし、事業の進捗状況、関係機関への意見照会、社会環境の変化等を踏まえ、必要に応じ改定する予定です。

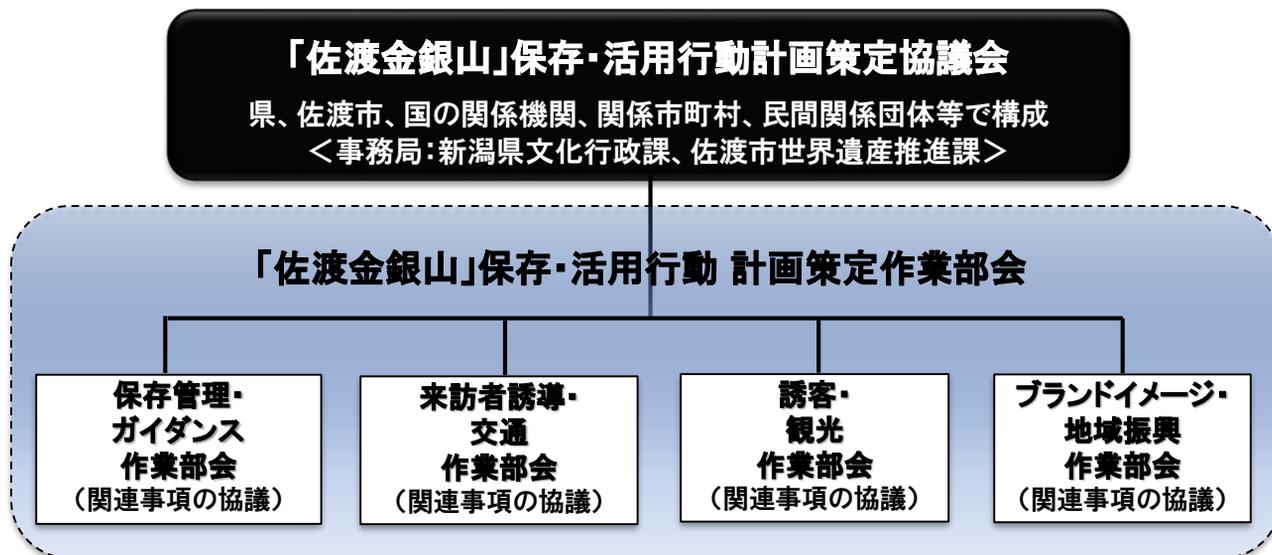
### 4. 計画の策定経過

#### (1) 計画の「基本的方向性」の取りまとめ

まず新潟県と佐渡市が、地域住民とのワークショップ、上・中・下越・佐渡で有識者・民間団体・関係企業等を対象に開催した「佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会」などの意見を伺いながら平成25～26年度に「基本的方向性」を取りまとめました。



## (2) 計画の策定体制



## (3) 計画の策定スケジュール

平成27年3月：県と佐渡市が「基本的方向性」を取りまとめ

〃 5月：第1回策定協議会を開催、「基本的方向性」をもとに意見交換

〃 7月：第2回策定協議会を開催し、「基本構想」決定

「行動計画」策定に向けた「作業部会」設置

平成28年3月：第3回策定協議会で「行動計画」を決定

〃 5月：「佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議」総会で報告

## 5. 事業推進と進行管理

本計画の実施に当たっては、関係する国や自治体はもとより、民間団体や地域の関係者の皆さんと強い連携を図りながら、共通認識のもとに一体となって取り組んでいくことが重要です。

このため、本計画に掲げる取組事項は、その内容に応じて、関係者間で調整を図り推進していきますが、計画全体の進行管理や見直し等は、新潟県、佐渡市と民間団体等による「「佐渡金銀山」保存・活用行動計画推進会議」を新たに設置し、協議・調整を行っていくこととします。

## 第2章 佐渡金銀山の価値

### I.世界遺産登録の意味

### II.構成資産概要

# I.世界遺産登録の意味

## 1.世界遺産登録の意味

世界遺産登録の主たる目的は、「顕著な普遍的価値」（※1参照）を有する「文化遺産」「自然遺産」および「複合遺産」（※2参照）を世界全体で保護することです。

世界遺産への登録は、その資産が「特別の重要性」を有しており「人類全体のための世界の遺産の一部として保存する必要がある」と判断されることを意味し、登録された資産は「国境を超える資産」とみなされます。また、登録された資産は人類共有の財産として、「未来へ引き継ぐ」責務を保有国のみならず国際社会全体で担うこととなります。

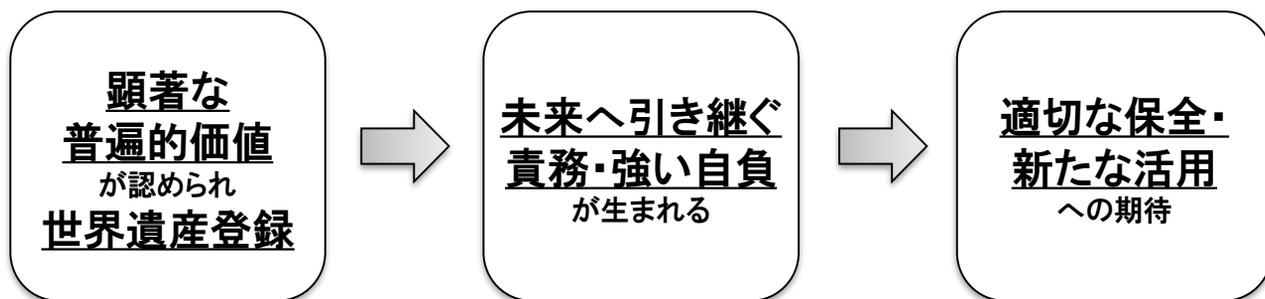
このように資産が「顕著な普遍的価値」を有すると認定されることは、その資産を見直す動機づけにもなります。例えば、佐渡金銀山遺跡の保全においては、人類共通の財産を担うという責任を負うことにより、強い自負が生まれ、更には世界全体からチェックされることにより、遺跡を未来へ引き継ぐための一層の努力が重ねられます。また、遺跡の活用においては、グローバルな視点で遺跡を見直すきっかけとなり、新たな地域づくり等が進むことが期待されます。

※1 顕著な普遍的価値…人類全体にとって、現在や将来にわたって重要であるような、傑出した価値のこと。

※2 文化遺産…歴史上、芸術上または学術上重要な価値をもつ記念物、建造物群、遺跡、文化的景観等。

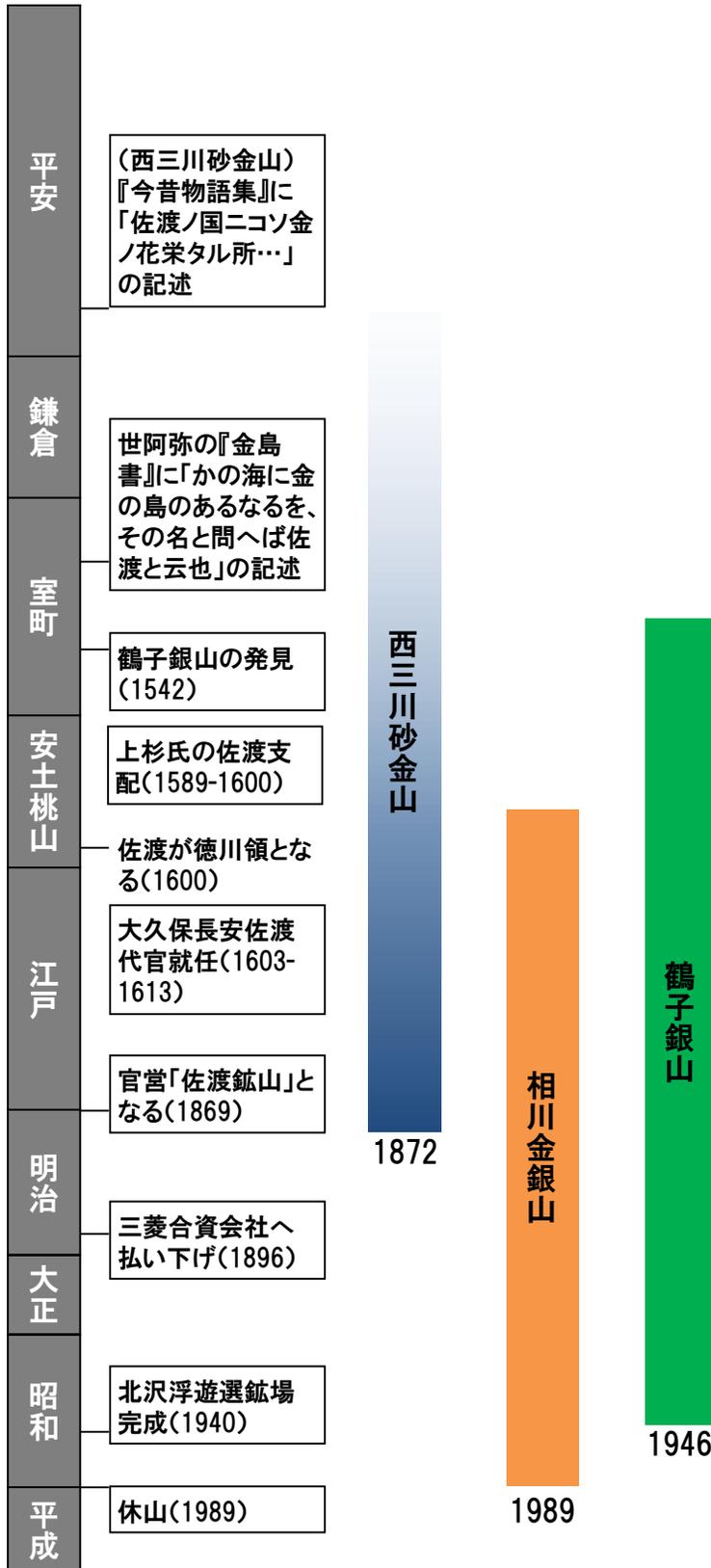
自然遺産…地形や地質、生態系、景観、絶滅のおそれのある動植物の生息地等を含む地域で、傑出した価値をもつもの。

複合遺産…文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの。



## Ⅱ.構成資産概要

### 佐渡金銀山年表



### 1.佐渡金銀山遺跡の価値

西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山の3つの鉱山から成る佐渡金銀山は、日本最大の金鉱山群です。佐渡金銀山では、400年以上にわたる金生産技術の変遷が分かる遺跡群をはじめ、金生産を支えた人々の生活の様子を物語る集落遺跡やまちなみを見ることができます。このような金鉱山は世界でも極めて貴重な遺産です。

また、佐渡金銀山で生産された78tの金は、小判や金貨など貨幣素材に用いられて日本の財政を支えたほか、17世紀のオランダ東インド会社の発展に寄与するなど、国内外に大きな影響を与えました。

## (1) 金生産社会の形成

佐渡島では、本格的な鉱山開発が始まった16世紀後半から、西三川砂金山や鶴子銀山に鉱山集落が形成され始めました。さらに、17世紀に入って相川金銀山が本格的に開発されると、金を求めて国内各地から相川に人々が集まり、人口4～5万人からなる国内最大の鉱山町が形成されました。相川では、江戸時代から現在までのまちなみの変遷を見ることができます。

これら400年以上に及ぶ金生産社会での人々の営みの全てが、現在も遺跡・集落・まちなみとして残っており、金生産を行った産業社会の変遷を示す世界的にも貴重な遺産といえます。

## (2) 金生産システムの変遷

佐渡島には砂金と鉱石から成る金鉱床があり、江戸時代までは、それぞれの特徴に応じた独自の金生産システムが成立しました。この時期の相川では、鉱石の採掘、選鉱、製錬を経て金貨の製造まで一貫して行われています。

また、明治時代以降は、進んだ西洋の鉱山技術を他の鉱山に先駆けて取り入れ、佐渡鉱山に合わせて改良し、独自の技術として発展させていきました。これらの鉱山技術を物語る遺跡は、現在も良好に残っています。

16世紀半ばから20世紀後半までの400年以上の長期間にわたって変遷した様々な金生産システムが遺跡により明確に理解できる鉱山は、世界で佐渡金銀山以外にありません。

## 2.構成資産の概要

「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」は七つの資産で構成され、中核となる資産は、西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山です。金生産システムとそれを支えた社会組織の状況を理解できる物証が残っているのは、西三川砂金山と相川金銀山のみであり、16世紀後半に、当時の最新技術を導入して相川金銀山開発の先駆けとなった鶴子銀山にも、生産システムや、生産を支えた社会組織を示す遺跡が良好に残っています。

### (1)西三川砂金山

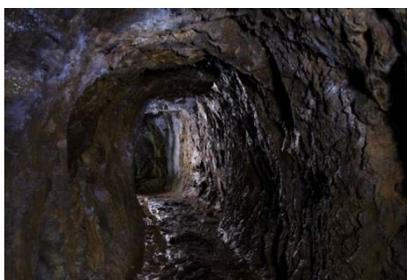


笹川集落と虎丸山

佐渡における金銀採掘の歴史は古代にさかのぼり、12世紀末に成立したとされる『今昔物語集』に登場する砂金採取が最古とされています。その舞台とされている西三川砂金山では、江戸時代には、砂金を含む山肌を掘り崩し、上流から長距離水路を引き、堤に溜めた大量の水を一気に流し込んで余分な土石を洗い流す「大流し」と呼ばれる技法が用いられていました。これは、世界で他に見られない砂金採取システムであり、「稼ぎ場」と呼ばれる採掘や選鉱場所の跡や堤、「江道」（水路）の跡等の地下遺構が現在もほぼ完全な形で保存されています。

また、笹川集落には、金子勘三郎家、鉱山のための宗教施設であった大山祇神社が残っています。

### (2)鶴子銀山



大滝間歩の坑道

鶴子銀山は、16世紀中頃発見された佐渡最大の銀山で、600か所を超える採掘の痕跡が確認されています。初期に用いられた地表近くの鉱石を掘り採る「露頭掘り」、鉱脈だけを狙って不規則に掘り進む「ひ追い掘り」、トンネル状に掘る「坑道掘り」といった、時代の異なる様々な採掘方法が確認できます。

さらに、管理施設である代官屋敷跡や、生産に関わった人々により形成された鉱山集落跡等、銀山に関連する遺跡も多く発見されています。

### (3)相川金銀山



道遊の割戸

相川金銀山の本格的な開発は1601年に始まり、佐渡は江戸幕府の直接の支配下に置かれました。大久保長安は石見や生野、甲斐などから「山師（やまし）」と呼ばれる鉱山経営者を集め、最先端の測量、採掘（坑道掘り）、製錬（灰吹法、硫黄分銀法、焼金法）技術で開発させました。佐渡で独自に発展したこれらの技術により、相川金銀山は世界的にも有数の金産出量を誇りました。また、これらの技術は佐渡から全国各地の鉱山に伝播しました。



シクナー

※昭和15年（1940）の増産体制時に建設された、泥状の泥鉱を鉱物と水に分離する装置

明治時代には、相川金銀山と鶴子銀山は「佐渡鉱山」の名称で1869年に官営化され、のち1896年に三菱に払い下げられました。水平坑道を垂直につなぐ豎坑（たてこう）の開削や鉱石運搬の機械化など、欧米からもたらされた鉱業技術により、金銀生産量は大幅に増加し、佐渡鉱山は我が国を代表する近代的な鉱山に生まれ変わりました。

16世紀末期に成立した、初期鉱山集落である上相川地区から、17世紀初期に計画的に地割が行われた相川上町地区へ集落が移り、鉱山とともに400年間継続した地割は現在も良好に保たれています。また、宗教施設が集約された上寺町地区、管理施設としての佐渡奉行所、鐘楼、御料局佐渡支庁、旧鉱山事務所などの跡も良好に残っています。

### (4)大間港



大間港及び大間発電所は、明治時代半ばから昭和時代までの間に行われた、金の搬出や、鉱山に必要な物資の搬入に使用されました。大間港には、1892年に築港された時の「たたき工法」による護岸をはじめ、築港当初の構造が良好に保たれています。また、大正時代から昭和時代初期にかけて設置されたクレーン台座やローダー橋脚、トラス橋なども残っています。

### (5)吹上海岸石切場跡



下相川地内の「吹上」と呼ばれる海岸一帯では、江戸時代から近現代まで続いた石切丁場の痕跡を見ることができます。石切場跡は球顆流紋岩を主体とした露岩部に存在しています。相川金銀山において、鉍石を細かく磨り潰す作業のために重要な役割を果たした石臼のうち、上臼の石材の切り出し場所でした。切り出しを行った際に使ったくさびやのみの跡は、現在も良好に残っています。

### (6)片辺・鹿野浦海岸石切場跡



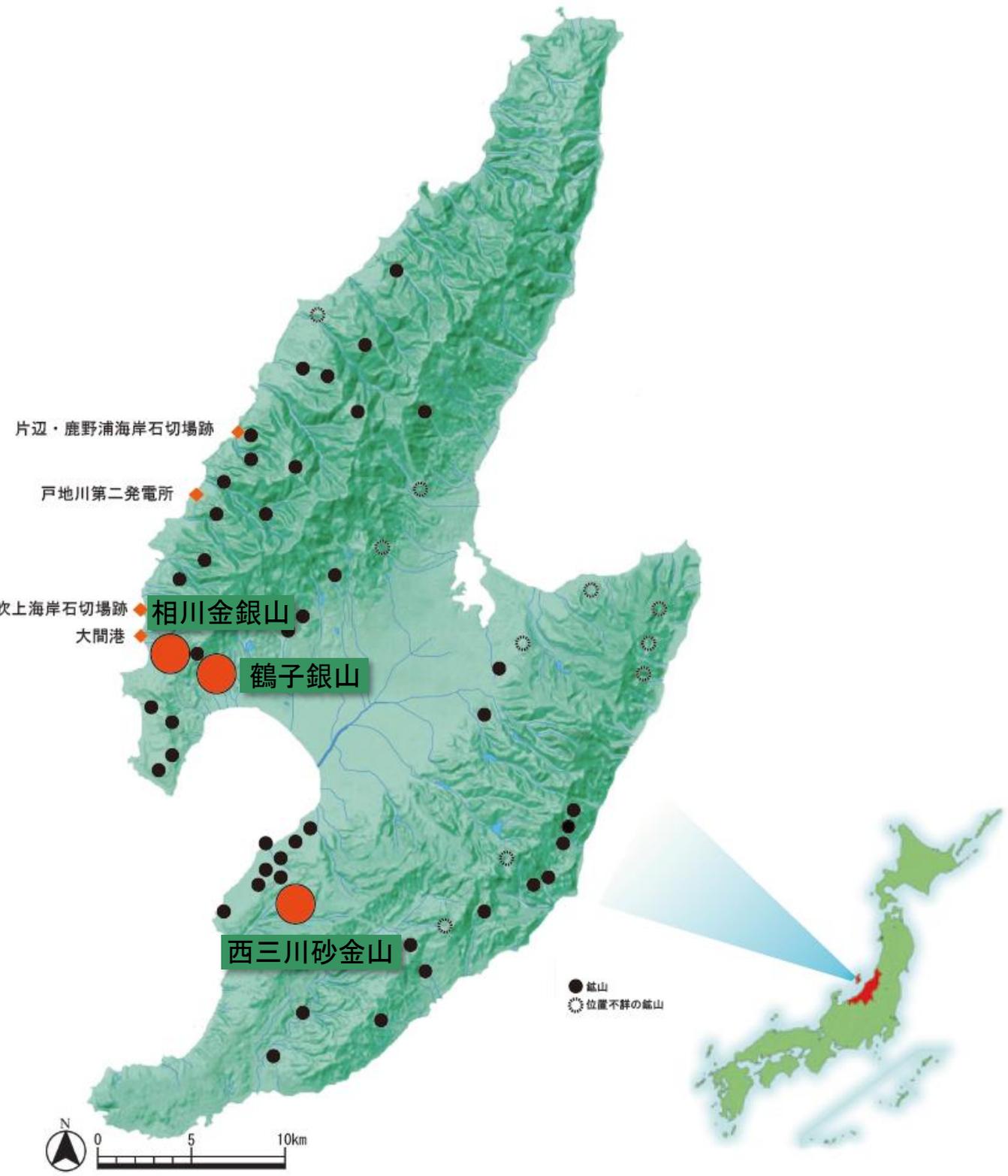
片辺・鹿野浦海岸石切場跡は、相川市街地より北へ約12km離れた海岸部の標高0～10m付近に立地しており、極めて硬い花崗岩質礫岩から形成されています。相川金銀山において、鉍石を細かく磨り潰す作業のために重要な役割を果たした石臼のうち、下臼の石材の切り出し場所でした。石切場は南北2か所に分かれています。石を切り出すためにくさびを入れた穴（矢穴）が無数に残っており、石材切り出しの作業工程が明確に理解できます。

### (7)戸地川第二発電所



当該地は相川市街地より北へ約9km離れた戸地地区にある、第二発電所施設及び導水路跡を含む範囲です。戸地川第二発電所は、1919年、戸地川河口付近に建設された、出力510kVaの水力発電所で、1977年まで稼働し、鉍山の電力をまかさないました。1910年代、増大しつつあった佐渡鉍山の電力需要を満たす施設として設置されました。当時の発電所建屋、発電設備、水路、排水口が良好に残っています。

### 構成資産の位置



## 第3章 佐渡金銀山の保存管理

# 佐渡金銀山の保存管理

## 1.佐渡金銀山の保存管理とは

地域住民を始め県民全体が、誇りをもって佐渡金銀山遺跡や景観、周辺環境を守り、未来へ継承していくことを目指します。

## 2.現状と課題

- (1) 法令による保全だけでは限界があり、地域住民等より多くの人々の理解・協力が必要です。
- (2) 遺跡保存の観点から、来訪者の適切な誘導に関するソフト・ハード両面の整備が必要です。
- (3) 官民による各種工事に当たって、町並みや農山村景観の保全への配慮の徹底が必要です。
- (4) 日常の維持管理や、大規模修繕などを円滑に行うための制度設計を行う必要があります。

## 3.基本的な方向性

- (1) 文化財保護法、佐渡市景観条例など関連法令による保全を徹底します。
- (2) 遺跡等の保存に係る調査研究、それを踏まえた整備計画を策定し、適切な整備・修理を行います。
- (3) 遺跡の保存状況の経過観察、適切な保存方法等を検討・実施する体制を整備します。
- (4) 遺跡やその周辺環境・景観の保全の必要性を広く理解してもらうための、きめ細かな情報発信などを実施します。
- (5) 「佐渡市世界遺産推進基金」を活用し、民間団体の保全活動資金を確保します。
- (6) 立入禁止区域、写真撮影禁止区域の明示等、遺跡の保存管理のための案内板を設置し、現地で適切に来訪者を誘導します。
- (7) 世界遺産とその周辺地域での各種工事に当たって、行政内部（世界遺産部局と開発部局）及び、行政と民間が緊密に連携します。

## 4. 具体的方策

項目		内容
1	世界遺産の保存管理	ユネスコへ提出する世界遺産登録推薦書で示した内容に基づき、定期的かつ体系的な経過観察を行う。
2	遺跡の保存等に係る調査研究の推進	長期的な視点に立った調査研究の計画を策定し、研究を推進する。
3	文化財保護法に基づく保存管理	文化財保護法に基づき、遺跡の保存管理を行う。
4	各種計画に基づく保存管理	史跡保存管理計画や重要文化的景観保存計画等各種計画に基づき、対象エリアの保存管理を行う。
5	景観条例に基づく景観保全	佐渡市景観条例に基づき、遺跡周辺の景観保全を行う。
6	景観に配慮したデザインの検討	景観に配慮した公共事業等のデザインのあり方について検討する。
7	文化財等保存修理	構成資産の適切な修理や整備を行う。
8	構成資産の巡視・監視体制の強化	構成資産の適切な維持・保全に向けて、パトロール体制の整備・強化を図る。
9	民間による保全活動の推進	企業や住民団体等が自主的に実施する遺跡の保全活動を推進する。
10	違反広告物の撤去	違反広告物の実態調査を行い、撤去等を行う。
11	違反広告物の撤去掲出に関する住民等への予防的措置	地域住民等に対し、適切な屋外広告物の掲出に向けた啓発等を行う。
12	新設及び既存建物の景観への配慮	新設及び既存の建築物に対し、景観に配慮した規制誘導を行う。
13	地域における景観形成	地域が協働し、主体的、継続的に取り組む良好な景観形成を推進する。
14	佐渡市世界遺産推進基金の活用	基金を活用し、民間団体の保全活動資金を確保する。
15	来訪者の適切な誘導	立入禁止区域等、遺跡の保存管理のための案内板を設置し、来訪者の適切な誘導を図る。
16	景観阻害要因についての関係者協議	鉄塔や電柱等、景観阻害要因を抽出し、改善に向けて関係者と協議する。

## 第4章 世界遺産登録に向けた来訪者の受入体制整備

- I .アクセスルートの整備・来訪者の誘導等
- II .ガイダンス機能・ガイド体制の充実等
- III .安全対策の徹底
- IV .ホスピタリティの醸成
- V .来訪者マナーの醸成

# I .アクセスルートの整備・来訪者の誘導等

## 1.アクセスルートの整備・来訪者の誘導とは

アクセスルートの整備とは、新潟本土から佐渡へ、さらに遺跡や主要観光スポットまでのルートを整備することであり、来訪者の誘導とは、来訪した方が、安心して、遺跡エリアを円滑に周遊できるように配慮した整備や情報提供を行うことです。

## 2.現状と課題

### (1) 佐渡へのアクセス方法及び時期が限定的である

- 現在、新潟本土と佐渡島を繋ぐ交通手段は、船舶のみで、春季から秋季には1日往復15～20便程度を運航していますが、冬季には小木航路及び赤泊航路が運休するため1日往復10便程度となり、さらに、海象条件の悪化のため欠航も増加します。
- 佐渡航路の利用者は、夏季に集中している傾向があり、来訪者が急増した場合においても、佐渡市民の生活交通に影響を与えないような対策を検討する必要があります。
- 新潟本土～佐渡島間の交通手段に関して、来訪者が急増した際に対応できるよう、便数の増加等を検討する必要があります。
- 来訪者の集中が想定される相川地区では、駐車場の不足が懸念されます。
- 北陸新幹線開業に伴い、新しいアクセスルートの周知・利用拡大が必要です。

### (2) アクセス方法が分かりにくい

- 遺跡に通じる道路や案内標識等のインフラ整備が、十分でない地域があります。

### (3) 島内での各遺跡やその他観光スポットへの効率的なアクセスルート・インフラが整備されていない

- 複数の遺跡や他の観光スポットとのネットワーク化等効率的なアクセスルートの整備が十分ではありません。

### (4) 佐渡島内に遺跡や観光スポットが点在しており、どのように周遊すれば良いか分かりにくい

- 遺跡や観光スポット間の所要時間や交通手段等、移動に関する情報提供が不足しています。
- 推奨ルートやモデルコース等、来訪者が効率良く周遊できる情報提供が十分とはいえません。

### (5) 遺跡地域と居住地域が明確に区別されていない箇所がある

- 遺跡地域や自然環境の保全、来訪者等の安全性の確保のための整備が必要な箇所がいくつか存在します。
- 地域住民の居住地内に遺跡が存在する地域では、生活環境保護の視点から見て、遺跡地域と居住地域が不明瞭な箇所があります。

### (6) 海外からの来訪者や高齢者等多様な来訪者が不自由なく散策できる環境ではない

- 外国人旅行客の大幅な増加が見込まれますが、案内サインや説明サインの多言語化や外国語でのガイド、トイレの洋式化、WiFi環境等の整備が十分とはいえません。
- 足腰の弱い高齢者等の来訪が増加すると見込まれますが、洋式トイレが少ないことや、各所に急な階段や段差があるなど、対応が十分とはいえません。

## 3.基本的な方向性

- (1) 佐渡市民の日常生活への影響を極力抑えながら、新潟本土から佐渡、さらには各遺跡や観光スポットまでの、安全で分かりやすいアクセスルートの整備と情報提供を行います。
- (2) 官民連携により、繁忙期、冬季を考慮した、多様な移動手段の提供を検討します。
- (3) 北陸新幹線開業に伴い、新しいアクセスルートの周知・利用拡大に向けた取組を検討します。
- (4) 案内サインや説明サインの多言語化や外国語対応ガイドの育成、トイレの洋式化、WiFi環境の整備等、外国人観光客の受入環境整備を図ります。
- (5) 足腰の弱い高齢者等への対応として、エレベーターやエスカレーターの整備、トイレの洋式化等、各種施設等のバリアフリー化を検討します。
- (6) 来訪者のピーク時を想定し、駐車場、トイレ、休憩所等のハード整備のほか、パークアンドライドなど人や車の動線を考慮した多様なアクセス方法を検討します。
- (7) 来訪者の安全性の確保、地域住民の日常生活維持のため、立ち入り可能・禁止区域を明示します。
- (8) 来訪者の多様なニーズに対応できるモデルコースや散策道整備等を検討します。

## 4.具体的方策

項 目	内 容
1 県内主要箇所から佐渡までのアクセス方法の確認・整備	県内主要箇所から佐渡までのアクセス方法を確認し、必要に応じてその整備と分かりやすい情報提供について検討する。
2 島内の港から各遺跡や観光スポットまでのアクセス方法の確認・整備	島内の港から各遺跡や観光スポットまでのアクセス方法を確認し、必要に応じてその整備と分かりやすい情報提供について検討する。
3 案内標識の設置	来訪者の円滑な移動に向けて、案内標識等の整備の充実を図る。
4 佐渡航路のピーク時を想定した対応の検討	佐渡航路のピーク時を考慮した対応を検討する。
5 二次交通の充実・改善	官民連携により、繁忙期、冬季を考慮した、二次交通の充実を検討する。
6 北陸新幹線を活用したアクセスルートの周知・利用拡大	北陸新幹線開業に伴う新しいアクセスルートの周知・利用拡大を図る。
7 外国人観光客の受入環境整備	案内サイン等の多言語化やトイレの洋式化、WiFi環境の整備等外国人観光客の受入環境整備を図る。
8 外国人向けガイドブックの作成	外国人の関心に合わせた外国人向けガイドブック、パンフレット等を作成する。
9 各種施設のバリアフリー化	高齢者等への対応としてエレベーターやエスカレーターの整備など、各種施設のバリアフリー化を検討する。
10 駐車場、トイレ、休憩所等周辺整備	来訪者の増加が想定されるエリアの駐車場、トイレ、休憩所等の周辺整備を検討する。
11 パークアンドライド等多様なアクセス方法の検討	人や車の動線を考慮し、パークアンドライドなど多様なアクセス方法を検討する。
12 ピーク時を想定した緊急受入対応の検討	ピーク時を想定した駐車場や代替交通、仮設トイレ等の整備・検討を行う。
13 立入可能・禁止区域の明示	来訪者の安全確保、地域住民の日常生活維持等のため、立入可能・禁止区域を明示する。
14 モデルコースの設定	来訪者の構成資産間の円滑な移動に向けて、モデルコースを設定し、その周知を図る。
15 生活道路の機能確保	地域住民の生活環境維持に向けて、遺跡周辺の生活道路における交通規制等について検討する。

## Ⅱ. ガイダンス機能・ガイド体制の充実

### 1. ガイダンス機能・ガイド体制の充実とは

ガイダンス機能とは、世界遺産の構成資産を分かりやすく解説し、その世界的価値や後世に保存・継承する意義について来訪者等に理解を深めてもらうための機能であり、こうした機能の充実と、来訪者に遺跡をはじめ島内を案内するガイドの育成と体制強化を図ることで、佐渡および佐渡を通じて新潟県の魅力を伝えていきます。

### 2. 現状と課題

#### (1) 解説パネルや見学マップといった説明媒体が整備されていない

#### (2) 地下に埋没した遺跡の価値などを分かりやすく伝える工夫が必要である

#### (3) 国内外の多様な来訪者に価値を伝えるための説明媒体が整備されていない

#### (4) 遺跡内の見学ルートの設定及び資産へのアクセス整備が必要である

- ・ 佐渡島の玄関口である両津港や小木港等から各構成資産へ至るまで、マイカーやレンタカー以外の二次交通の利便性がとても悪い現状です。
- ・ モデルコースが未整備であるため、初めての来訪者は何をどのルートで見学したら良いのか判断に迷ってしまいます。

#### (5) 遺跡の基本情報を得るための各施設間の連携が十分ではない

- ・ 新潟本土側で、構成資産に関する情報提供が十分にできていません。
- ・ 構成資産の近隣に休憩施設や飲食店、ショップなどが少ない。またそれを総合的に情報提供できる場がありません。

#### (6) 現在のガイド数・体制では、来訪者が増加した場合に十分な対応ができない

- ・ 現在、佐渡金銀山に関係したガイドはおよそ30人であり、人員が不足しています。
- ・ 数十人規模でのガイド数の拡大やガイドの質をより高めるための研修制度が必要です。
- ・ ガイドの平均年齢が高いため、次世代のガイドの育成も課題です。

#### (7) 海外からの来訪者に対応したガイド体制が不足している

- ・ 使用言語、話すテーマ等の検討が必要です。

### 3.基本的な方向性

- (1) 構成資産の価値をわかりやすく説明するため、従来型の説明媒体の充実に加えバーコード、QRコード等を活用した復元映像の提供、多言語機能の付加など効果的な説明媒体の整備に努めます。
- (2) 点字、音声ソフトなどバリアフリー機能を導入します。
- (3) 各遺跡に対する理解を深めるための見学ルートを作成・発信します。
- (4) 各遺跡とそのアクセス情報等を提供するガイダンス施設を整備します。
- (5) 世界遺産に加え、ジオパークやジラス、移動手段等に関する総合的な知識を持つガイドを育成します。
- (6) 長期的視点でガイドを育成することを目指します。
- (7) 海外からの来訪者に対応できるガイドを育成します。

### 4.具体的方策

項 目		内 容
1	解説パネル等の整備	解説パネルや見学マップ等基本的に必要な説明媒体の整備を行う。
2	ガイドブックやパンフレットの作成	構成資産全体をわかりやすく説明したガイドブックやパンフレット等のほか、来訪者の知的好奇心を満たすための構成資産ごとの詳細なガイドブックやパンフレット等を作成し、その周知を図る。
3	多様な説明媒体の整備	構成資産の価値をわかりやすく説明するため、QRコード等を活用した復元映像の提供や多言語機能など、効果的な説明媒体を整備する。
4	バリアフリー機能の導入	説明媒体に点字や音声ソフトなどバリアフリー機能の導入を図る。
5	見学ルートの作成・発信	各遺跡への理解を深めるための見学ルートを作成し、その周知を図る。
6	ガイダンス施設整備	コアガイダンス施設及びサテライトガイダンス施設の整備を行う。
7	世界遺産ガイドの養成	世界遺産に加え、ジオパークやジラス、また、移動手段等に関する総合的な知識を持つガイドのほか、海外からの来訪者に対応できるガイドや資産ごとに詳細な説明を行うガイド等の養成について、次世代の育成も含めて検討する。
8	ガイド窓口の設定	佐渡金銀山の観光案内とガイド予約を受け付ける窓口機能を設置する。
9	ガイド予約システムの検討	ガイド予約の効率化に向けて、インターネットを活用した「ガイド予約システム」の構築を検討する。

## Ⅲ.安全対策の徹底

### 1.安全対策の徹底とは

安全対策の徹底とは、来訪者が遺跡を始め佐渡島内、新潟県内で安心、かつ快適に過ごせるように配慮した取り組みをすることです。

### 2.現状と課題

#### (1) 遺跡が、地下や山中等危険な箇所にあつたり、危険生物がいる箇所がある

- 遺跡の周辺では、散策道の整備が不十分な箇所、立ち入り禁止区域が不明瞭な箇所、マムシやハチ等の危険生物の生息する箇所等があります。
- 来訪者の好奇心を満たすためには、数多くの遺跡の見学や体験は重要ですが、一方で、立ち入り区域の制限等安全に対する配慮も必要です。

#### (2) 安全対策、危機管理体制が確立していない

- 来訪者の不慮の事故や病気、災害発生時の対策、緊急連絡先、受入施設、管理体制等の整備や来訪者への情報提供が十分とはいえません。

### 3.基本的な方向性

来訪者が、遺跡をはじめ、佐渡、新潟県を安全に満喫できるように、全ての地域においてあらゆる病気・事故・災害発生等の事態を想定した体制・対策を整えます。

## 4.具体的方策

項目	内容
1 構成資産の巡視・監視体制の強化	構成資産内の安全確保に向けて、構成資産及びその周辺施設のパトロール体制の整備・強化を図る。
2 散策道の整備	来訪者の安全に配慮した散策道の整備を図る。
3 安全設備の整備	危険箇所に安全設備を整備し、周知対策を講じる。
4 立入区域の制限とその明示	地形的に危険な箇所や危険生物の生息箇所など立入区域の制限とその周知を図る。
5 一次救急医療機関との連携	来訪者の不慮の事故や疾病に対応するため、周辺の一次救急医療機関との連携体制を整備する。
6 危機管理体制の整備	来訪者の事故・疾病等や災害発生時等不測の事態に対応するための連絡・通報体制を整備するとともに、関係者に周知するための「危機管理対応マニュアル」を作成する。
7 携帯電話通話エリアの拡大	緊急時に備え、携帯電話通話エリアの拡大と連絡体制確保について検討する。

### ＜危機管理体制の確立＞

- 危機管理マニュアルの整備
- 連絡・通報体制の明確化
- 救急医療機関との連携

等

### ＜安全対策施設等の整備＞

- 危険箇所の周知・柵囲
- 散策道の整備
- 危険生物の周知・駆除
- 通信手段の確保

等

# IV.ホスピタリティの醸成

## 1.ホスピタリティの醸成とは

ホスピタリティの醸成とは、県民が遺跡を始め佐渡、新潟県に誇りを持ち、来訪者をもてなす意識を高め、行動する機運を高めることです。この活動が、来訪者の「住みたい、行ってみたい佐渡、新潟県」へとつながることを目指します。

## 2.現状と課題

### (1) 来訪者と地域住民や観光従事者等とのコミュニケーションが少ない

- ・ 来訪者は現地の人との交流を一つの楽しみとして捉えており、現地の人々の印象は旅行の印象として記憶されます。来訪者を歓迎する意識が低いと佐渡、新潟のイメージ低下を招くことが懸念されます。
- ・ 地元の人々の親切な対応、地元産の食材を使った料理等人が見える食は特に好まれますが、現状では来訪者との交流や地産地消が少ない状態です。地産地消を実施し、佐渡・新潟らしい食をおもてなしの心をこめて提供していくことが重要です。

### (2) ピーク時の宿泊施設の不足が懸念されるが、季節により来訪者数が変動するため、宿泊施設の増設が難しい

- ・ ピーク時の宿泊施設数の確保のため、民泊や遊休施設を活用した取組が必要です。
- ・ 佐渡島内の宿泊施設が不足する場合、新潟県内全域での連携が必要です。とりわけ、新潟の玄関口となる地域や佐渡と新潟本土を繋ぐ箇所（新潟市、上越市、長岡市等）では重点的な取り組みが必要です。

### (3) 佐渡島民、県民に対し、佐渡の金銀山の魅力や、世界遺産登録されたときの意義・効果を伝えきれていない

- ・ 佐渡島民、県民の協力を得るためにも、世界遺産になることでの県民の生活への良い影響等を理解してもらうことが重要ですが、広く理解が得られていません。

### (4) 本土側の県民と遺跡との接点が少ない

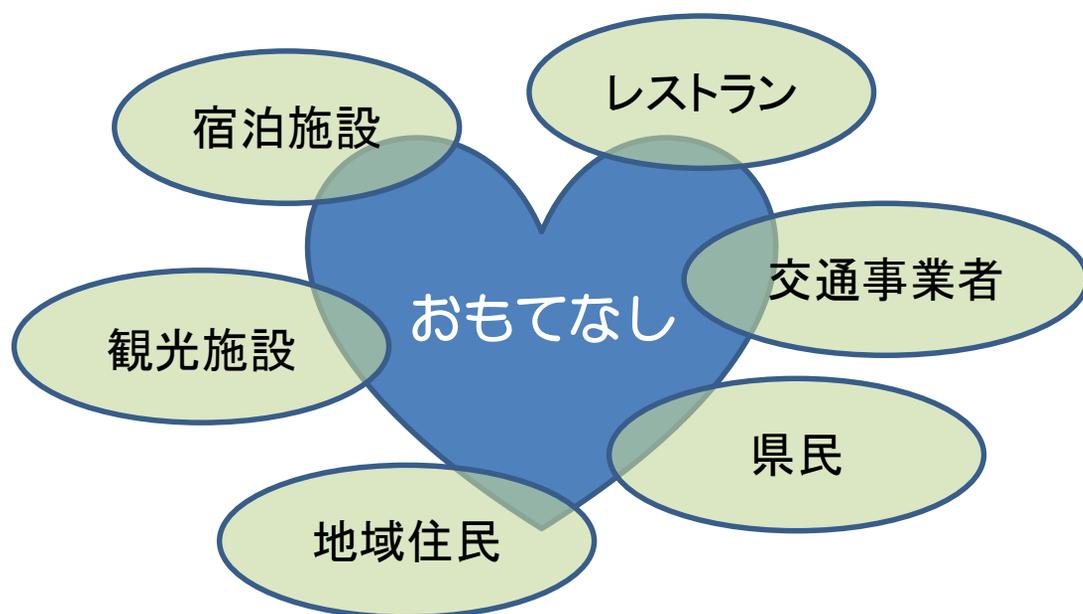
- ・ 郷土愛を深め、来訪者に対するもてなしの心を高めるために、県民が遺跡に接する機会や理解を深めることが重要ですが、現状その策が少ない状況にあります。

### (5) 観光従事者が来訪者に対し、遺跡の情報や、観光情報を提供できるような支援が必要である

- ・ 宿泊施設従業員やタクシー運転手等の来訪者と接点の多い方への情報提供や育成支援が必要です。

## 3.基本的な方向性

- (1) 観光従事者や地域の住民が、来訪者に丁寧な対応ができるように、佐渡金銀山に関する知識の向上や地域に対する誇りを醸成します。
- (2) 普及啓発活動を通じ本土側県民と佐渡金銀山との接点を増やし、知識の向上や郷土愛の醸成を図ります。
- (3) 民泊や遊休施設利用の取組を充実させ、滞在時間増による住民と来訪者とのコミュニケーションの機会を増やします。
- (4) ピーク時の宿泊施設数確保に向けて本土側との連携について検討します。
- (5) 学習教材の開発や「語り部」育成等により、地域や学校での学習活動を推進します。
- (6) 多様な来訪者に対応するために、ホスピタリティの向上を図ります。
- (7) 観光従事者を対象とした研修制度を実施します。



## 4.具体的方策

項 目		内 容
1	地域住民向け講習会の実施	地域住民を対象に、佐渡金銀山に関する講習会を継続的に開催する。
2	県民向け講座の開催	佐渡金銀山について学ぶ講座を県内各地で実施し、県民の知識の向上と郷土愛の醸成を図る。
3	民泊や遊休施設活用の推進	ピーク時の宿泊施設不足への対応として、民泊や遊休施設の活用について検討する。
4	来訪者と地域住民との交流促進	地域行事等に来訪者が気軽に参加できる仕組みなど、来訪者と地域住民のコミュニケーションの機会の増加を検討する。
5	ピーク時の宿泊施設確保に向けた本土側との連携	ピーク時の宿泊施設の確保に向けて本土側の宿泊事業者等との連携のあり方について検討する。
6	学習教材の開発	小中学校等の学齢に合わせた学習教材を作成する。
7	地域の「語り部」育成	佐渡金銀山にまつわる言い伝えや地域の文化等を地域の子供たちや来訪者に紹介する地域の「語り部」の育成について検討する。
8	宿泊施設等でのホスピタリティの向上	多様な来訪者への対応に向けて、宿泊施設等でのホスピタリティの向上について検討する。
9	地元の食の発信	地元食材による伝統的な食事のPRや新たなメニュー開発による取組等で来訪者に地元の食の魅力の発信を行う。
10	公共交通機関内での対応の充実	佐渡航路船内等で佐渡の文化や歴史を紹介するなど、佐渡への期待感を高める取組を実施する。
11	観光・交通事業者向け研修会の実施	観光・交通関連事業者を対象に、観光情報やホスピタリティに関する研修会を実施する。

---

---

## V.来訪者マナーの醸成

---

---

### 1.来訪者マナーの醸成とは

来訪者マナーの醸成とは、遺跡や周辺環境の保全に来訪者にも協力していただく意識の向上や行動する機会を増やしていただくための活動です。

### 2.現状と課題

#### (1) 遺跡の保全や遺跡の周辺環境への協力者の数が不十分

- 周辺環境や遺跡の保全には多くの人の協力が必要になりますが、その体制が十分とはいえません。

#### (2) エコツーリズムを活用した遺跡や景観・周辺環境保全への取り組みが不十分

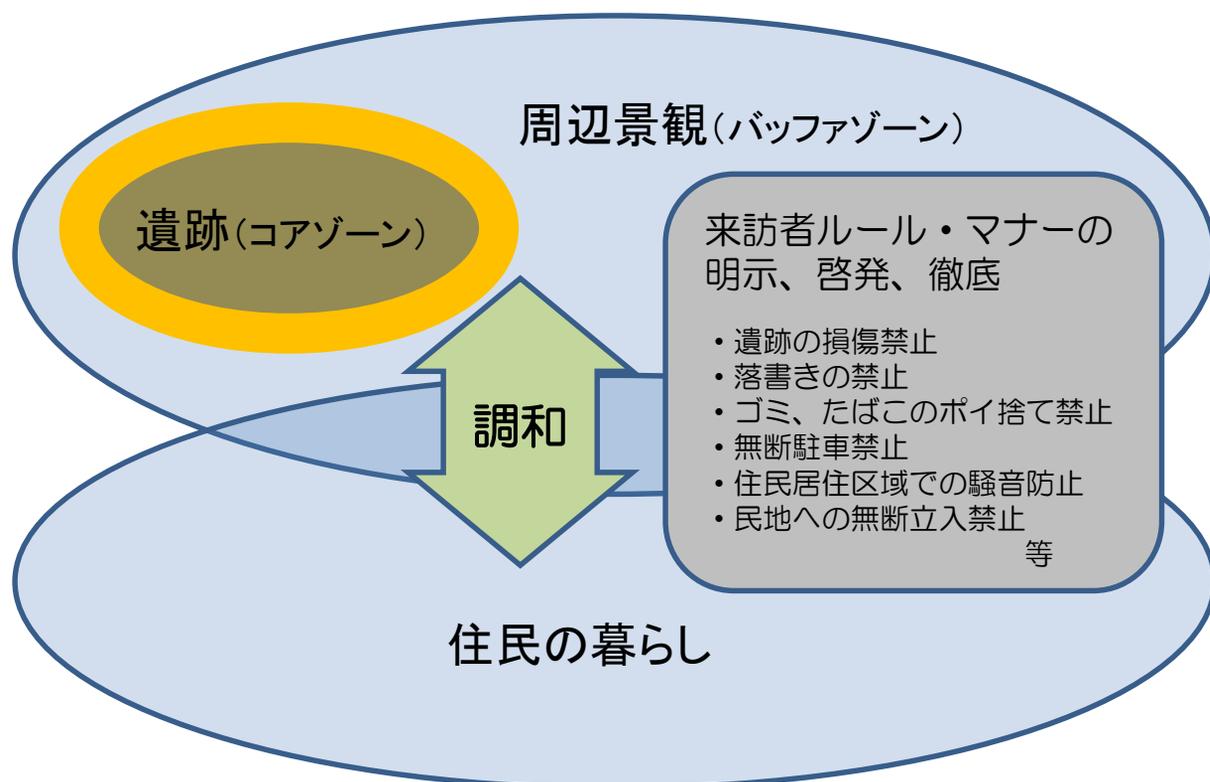
- 一般的に環境問題への関心の高まり等を受け、エコツーリズムが推奨される等、自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方が主流となってきています。こうした流れの中で、エコツーリズムを遺跡や景観、周辺環境保全に活用する取組が十分とはいえません。

### 3.基本的な方向性

来訪者も遺跡保全協力者の一員と捉え、遺跡の価値を享受し未来への遺産として引き継いでいくことへの参加を促します。

## 4.具体的方策

項目	内容
1 来訪者の保全意識の啓発	落書きや鉱石の持ち帰り等により遺跡を傷つけないよう、来訪者の保全意識の啓発を図る。
2 構成資産の巡視・監視体制の強化	遺跡や散策道のパトロール体制を整え、遺跡の破損、不法投棄等の日常的な監視を行う。
3 ゴミの分別や喫煙ルール等の策定	構成資産内及び周辺地域におけるゴミ出しのルールや分別方法、喫煙場所、喫煙マナーについて整理し、周知・啓発について検討する。
4 来訪者の散策マナー等の啓発	ゴミ投棄や民地への立入禁止など、来訪者の散策マナー等を整理し、あらゆる媒体での周知・啓発について検討する。
5 旅行事業者等への来訪者マナーの周知	来訪者マナーの周知に向けて、旅行事業者やバスガイドを対象とした講習会等を検討する。
6 パークアンドライドの推進	来訪者による交通渋滞緩和のため、パークアンドライドの取組を推進する。
7 エコツーリズムの啓発	観光PRに合わせ、エコツーリズムの啓発を行う。



## 第5章 世界遺産を核とした魅力ある地域づくり

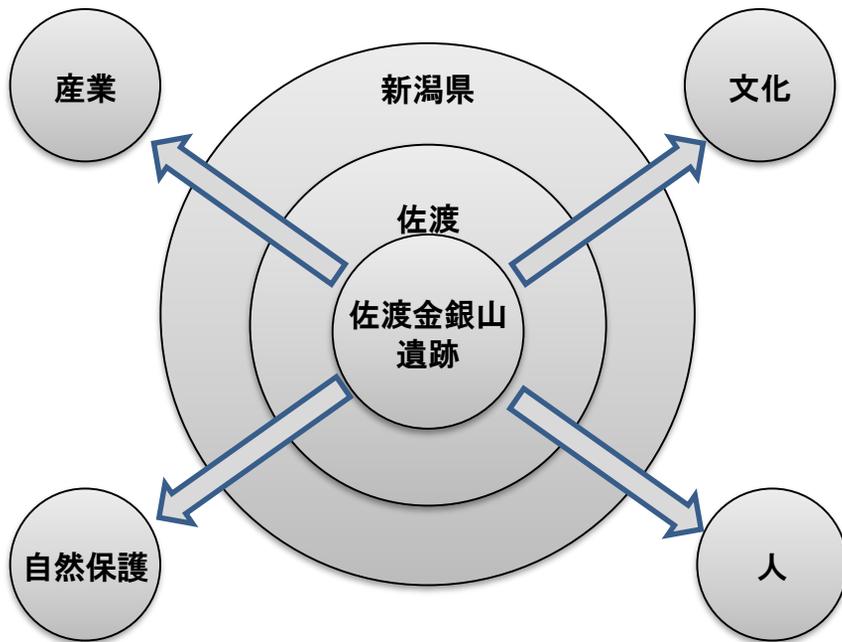
- I .佐渡金銀山のブランドイメージの確立
- II .伝統文化・地場産業の振興
- III .佐渡金銀山・関連地域資源を活用した島内及び全県的な魅力の発信

# 考え方

## 魅力ある地域づくりとは

地域住民を始め県民全体が、佐渡金銀山及び県内各地に存在する関連文化・産業等を活用することを通して「世界遺産効果」が佐渡だけでなく新潟県全体に波及する地域づくりを目指します。

魅力ある地域づくりの概念図



# I.佐渡金銀山のブランドイメージの確立

## 1.ブランドイメージの確立とは

ブランドイメージとは、佐渡金銀山の価値を表現するイメージであり、世界遺産登録により佐渡金銀山には新たなブランドイメージが生まれます。佐渡金銀山の価値を広く正しく認識してもらうために、共通認識や統一的なイメージを確立していくことを目指します。

## 2.現状と課題

### (1) 佐渡金銀山に対するイメージのエリアが限定的である

- ・ 「佐渡金銀山」という言葉から連想されるのは、観光施設の「佐渡金山」もしくは「西三川ゴールドパーク」のイメージが強くなっています。
- ・ 「鉱山」は相川地区に限定されたものというイメージが根強く残っています。
- ・ 相川地区以外にも重要な遺跡が多く存在していることが分かるよう、イメージを再構築していく必要があります。

### (2) 「鉱山」という言葉や佐渡の歴史から連想されるネガティブなイメージが残っている

- ・ 肉体労働というイメージが先行し、歴史的背景や鉱山文化などに対するイメージがあまり根付いていません。
- ・ 水替人足として江戸から送られた無宿人と罪人が混同される等、佐渡の歴史が正しく理解されていないところがあります。
- ・ 間違ったイメージを払拭し、文化や産業等と結びつけたイメージを発信していくことが必要です。

### (3) 佐渡金銀山に対するイメージが鉱山に限定されており、関連する文化や産業等との結びつきが弱い

- ・ 佐渡金銀山は文化や産業と密接な関わりを持っていますが、それらの魅力を統合的に感じることができるイメージがまだ構築されていません。
- ・ 鉱山だけではなく、関連する文化や産業を結び付けたイメージを発信していく必要があります。

### (4) 世界遺産のブランドイメージの付加がまだされていない

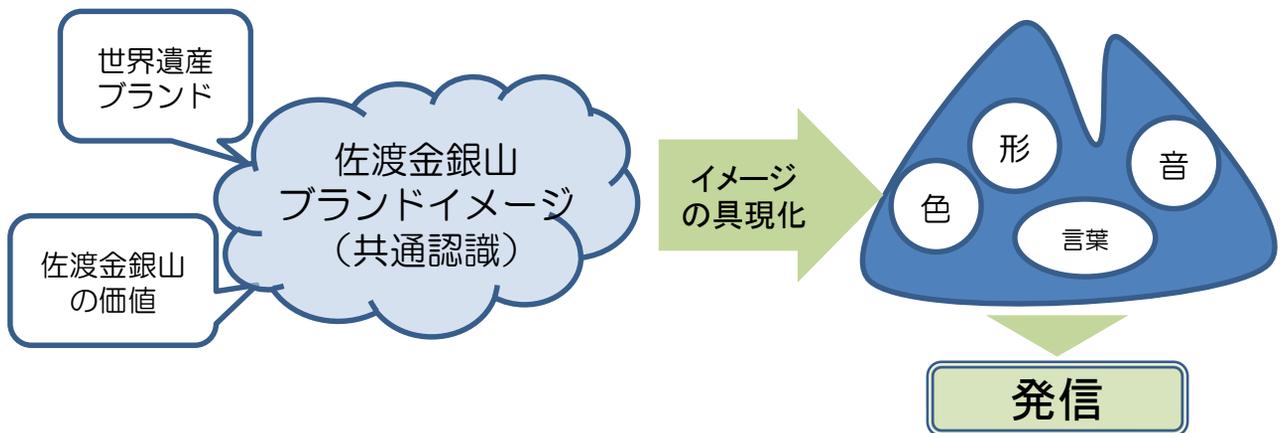
- ・ 世界遺産に登録された際には、「世界遺産」の持つ特有のブランドイメージを佐渡のブランドイメージに取り込んでいくことが重要です。

### 3.基本的な方向性

- (1) 資産間や関連文化・産業との繋がりを分かりやすく伝え、イメージの幅を広げていきます。
- (2) ネガティブイメージを払拭する新たなイメージ創出を図ります。
- (3) 佐渡金銀山が世界において稀有な存在であることを広く浸透させていきます。
- (4) 佐渡のイメージ向上を目指すことにより、新潟県全体のイメージ向上を図ります。

### 4.具体的方策

項目	内容
1 関連文化・産業との統合的な情報発信	佐渡金銀山に関連した文化や産業に係る魅力や価値を統合的に感じてもらえるイメージの構築と、その効果的な情報発信について検討する。
2 ネガティブイメージの払拭	鉱山独特のネガティブイメージを払拭するため、誤認されている史実について正しい理解を促すための情報発信について検討する。
3 生涯学習への取組	佐渡金銀山の正しい理解と関連文化・産業との繋がりを分かりやすく紹介する県民への学習機会の設定を検討する。
4 児童・生徒への取組	佐渡金銀山の正しい理解と関連文化・産業との繋がりを分かりやすく紹介する小中学生向けの学習機会の設定を検討する。
5 ブランドイメージの構築	新たな佐渡金銀山のイメージ確立に向けて、シンボルマークやキャッチコピー等のデザインを作成するなど、効果的な情報発信について検討する。
6 世界遺産ブランドの共有	世界遺産特有のブランドイメージを多くの県民・団体が共有する仕組みを構築し、その普及を図る。
7 PRビデオ等による情報発信	確立したブランドイメージを分かりやすく発信するため、PRビデオ等の制作を検討する。



## Ⅱ.伝統文化・地場産業の振興

### 1.伝統文化・地場産業の振興とは

佐渡金銀山の世界遺産登録による新たなブランドイメージを活用し、島内外の関連する伝統文化の振興を図るとともに、農林水産業等地場産業の振興も図っていきます。

### 2.現状と課題

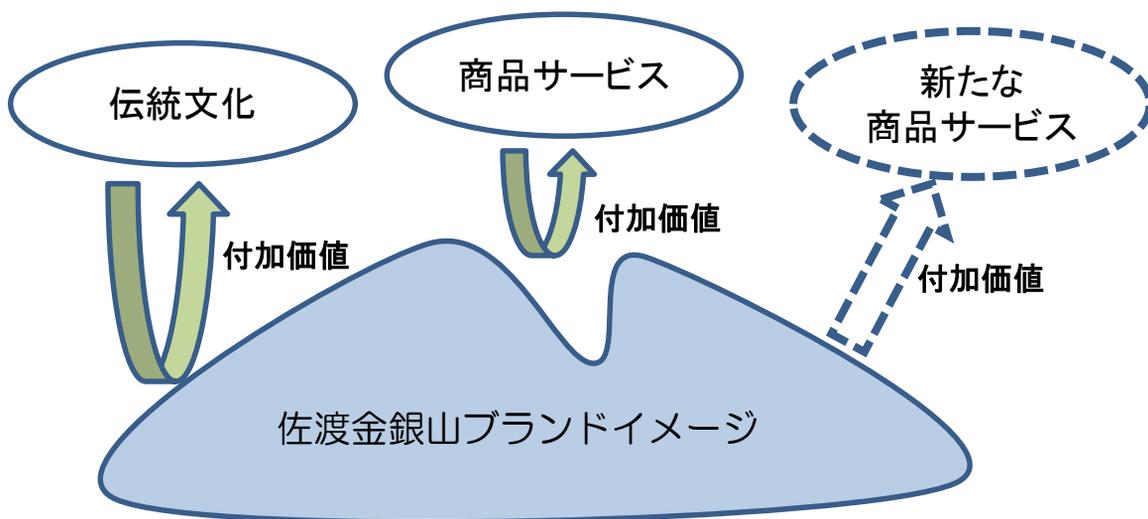
- (1)佐渡には、能や鬼太鼓、無名異焼等多彩な鉱山文化が存在しますが、それらを地域づくりに活かし、次世代へ継承していく体制が十分整備されていません。
- (2)佐渡は、豊かな自然に恵まれ農林水産物が豊富ですが、高齢化等による生産力の低下に加え、販売を支えるブランド力の構築が十分ではありません。
- (3)佐渡金銀山は佐渡島内だけでなく、本土側の文化・産業にも影響を与えていますが、本土側ではその認識が低く、交流が少ない状況にあります。

### 3.基本的な方向性

- (1)島内の歴史文化資源の周知に努め、地域住民の保存活用の意欲を高めます。
- (2)佐渡金銀山の世界遺産ブランドを活用し地元特産品の販売促進、地場産業振興を図ります。
- (3)本土側でも、県内外の佐渡金銀山とつながりのある団体や、歴史文化資源の把握・周知に努め、佐渡との交流促進、保存活用の気運醸成を図ります。

## 4. 具体的方策

項目	内容
1 伝統文化保存団体との連携	佐渡島内の関連する地域の伝統文化の保存・振興に向けて、保存活動を行っている団体等との連携体制を整備する。
2 関連伝統文化の保存継承支援	地域住民等が行う関連伝統文化の保存継承に向けた取組の支援を行う。
3 伝統文化の記録保存と情報発信	関連する地域の伝統文化・伝承を映像等に記録・保存するとともに、各種ツールを活用した情報発信を行う。
4 地場産業の活性化	佐渡金銀山ブランドイメージを活用し付加価値を高めた地元特産品のブランド化により、地場産業の活性化を図る。
5 地元特産品の販路拡大	佐渡金銀山ブランドイメージを活用し、県内外への地元特産品の販路拡大を図る。
6 世界遺産グッズの開発支援	世界遺産ブランドを活用した新たな世界遺産関連グッズ等の開発支援について検討する。
7 空き家や耕作放棄地の活用	空き家や耕作放棄地等を活用した地域の活性化について検討する。
8 本土側の関連団体との連携	本土側の佐渡金銀山の関連資源等を調査し、その関係団体との連携体制を整備する。



## Ⅲ.佐渡金銀山・関連地域資源を活用した 島内及び全県的な魅力の発信

### 1.島内及び全県的な魅力の発信とは

佐渡金銀山の価値を多くの人に理解してもらい、より多様な人々に来訪してもらうため、遺跡のみならず、佐渡及び新潟県全体の魅力を伝えていきます。

### 2.現状と課題

#### (1) 佐渡の観光入込客数は長期的に減少傾向にあるほか、新潟県全体でも、度重なる自然災害等もあり、中越大震災前の水準まで回復していない

- 佐渡への観光客数は平成3年の121.4万人をピーク時に平成23年は53.2万人と半数以下となっています。
- また、新潟県全体でもここ数年は7,000万人を超えたり、下回ったりを繰り返しています。
- 世界遺産登録を契機に、佐渡島内だけでなく、新潟県全体の魅力が高まり、「行ってみたい新潟・佐渡」として多くの人から認識してもらうことが必要です。

#### (2) 佐渡金銀山の総合的な情報不足により、一部の地域や箇所に来訪者が集中している

- 佐渡島内では、特に相川地区やゴールデン佐渡に来訪者が集中しており、佐渡の魅力を伝えきれていません。
- 来訪者の関心に応じ、多様な県内周遊ルートや、近県を含めた世界遺産周遊ルートを開発する等の工夫が必要です。
- 地域資源の内容を再度確認し、佐渡金銀山を核に複数の資産の価値が連鎖するようなストーリー性をもった魅力づくりを検討する必要があります。

#### (3) 民間、行政において、それぞれが多様かつ独自の発信を行うため、必ずしも利用者が欲しい情報を得やすい状況にはなっていない

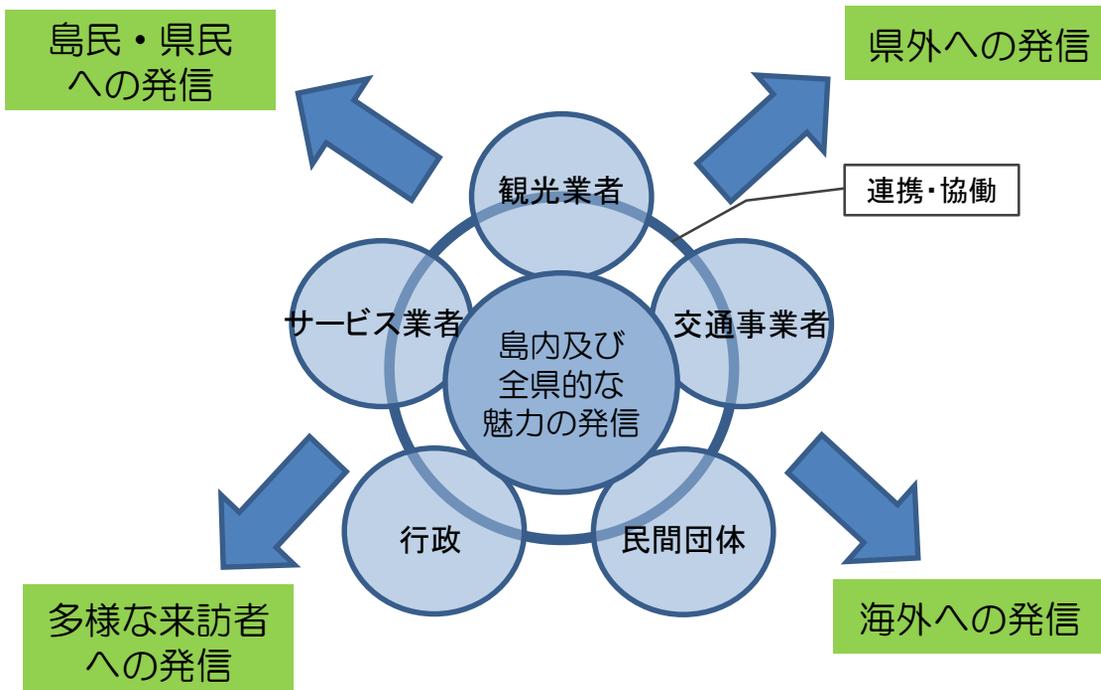
- Webサイトに掲載されている情報の整理や、新潟に行ってみたくなるような見せ方の工夫が必要です。
- パンフレットなどの刊行物に関しても、必要な情報が分かりやすい形で掲載されるよう、見直しが必要です。
- 効果的に情報を提供していくために、観光業者、交通事業者、サービス業者等事業者間の連携を強める必要があります。

#### (4) 季節や来訪者層に応じたアプローチが不十分

- 現在、佐渡への来訪は夏が多くなっていますが、冬の佐渡及び新潟も魅力がたくさんあります。季節ごとに情報発信内容や手段を工夫する必要があります。
- 世界遺産に登録されることで、知的好奇心の高い人等の新たな層からより関心が集まることが予想されます。そうした佐渡への関心が特に高い来訪者に特化した情報発信も必要になってくると考えられます。

### 3.基本的な方向性

- (1) 遺跡だけでなく、島内及び本土側の伝統文化や産業等の魅力も伝えられる広域周遊ルートを検討します。
- (2) 民間、行政が多様な視点で行う情報発信について、有機的に連携させ、利用者の情報入手の利便性の向上を図ります。
- (3) 官民連携による、国内外の多様な来訪者に向けた効果的な情報発信を行い、遺跡だけでなく、佐渡及び新潟県全体の魅力を伝えます。



## 4.具体的方策

項 目	内 容
1 体験型プログラムの整備	金銀の採掘等に関わる体験型プログラムの整備について検討する。
2 ジオパークやジラスとの連携	世界遺産に加え、ジオパークやジラス等、佐渡の特徴を踏まえた複合的な誘客方策について検討する。
3 グリーン・ツーリズム等の推進	佐渡の自然や文化を満喫してもらうためのグリーン・ツーリズム等の推進について検討する。
4 広域周遊ルートを検討	世界遺産を核に、佐渡島内だけでなく県内・県外の周遊を図るため、本県の多様な観光資源を活用した広域ルートの範囲を検討するとともに、広域旅行商品の造成支援等についても検討する。
5 提供情報データベースの整備	佐渡金銀山に関する情報のデジタルデータベースを整備するなど、行政や民間団体等の情報発信者及び利用者の情報入手の利便性向上について検討する。
6 遺跡と観光情報との連携	各遺跡と観光情報を有機的に連携させ、利用者の視点に立って様々な情報を統合的に発信する仕組みを検討する。
7 PRグッズ・コンテンツの作成	PR効果を高めるため、ノベルティグッズやPR映像等の作成について検討する。
8 各種広報媒体の活用	ホームページやSNSでの情報発信のほか、各種メディアに対しても積極的な情報提供を行う。
9 県内観光拠点における情報発信	県内各地の観光案内所やサービスエリア、道の駅等、人が多く集まる場所でのパンフレット設置やイベント開催など積極的なPR活動を行う。
10 物産イベント等の活用	全国各地で開催される「新潟フェア」等物産イベントを活用し、積極的なPR活動を行う。
11 海外向け情報の整備	ホームページや各種ツールの多言語化を図る。
12 国内外への情報発信	首都圏・関西圏のアンテナショップや海外事務所等を拠点とした情報発信を行う。
13 コアなファン層への情報発信	佐渡への関心が特に高い来訪者に特化した情報発信の手段と内容について検討する。
14 発信情報の鮮度管理	リピーター確保に向けて、各種媒体で発信する情報の鮮度をチェックする仕組みについて検討する。

**卷末付録**

**各種懇談会**

---

---

# 各種懇談会

---

---

## 1.第1回佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会(佐渡地域)

(1)開催日・会場:平成24年8月5日(日)13:00~15:00(於:新穂トキの村元気館)

(2)出席者:島内の民間支援団体代表者、行政区長、メディア関係者、経済団体代表等8名

(3)主要意見:以下のとおり

- ガイダンス施設を海岸べりに設置し、金山→海沿いのガイダンス施設→羽田町・天領通りで食事・散策といった「人の流れ」を創出することが最も重要。
- 商店主の立場から観光施設（史跡、宿泊施設等）と商店街との接点の無さが心配。
- 今後は観光施設と連携しながら客を商店街に呼び込み、我々地元住民の生活も「遺産」の一部として見て欲しい。
- 自分も含め佐渡金銀山の価値を理解していないので関心が薄いと感じている。住民に向け世界遺産としての価値の説明が必要。
- 地元小学校の6年生に継続的に「地元の宝」としての佐渡金銀山の話をしてきており、昨年同校の文化祭で児童が関連の劇を演じるとともにアミューズメント佐渡でも大規模な発表会を行うまでになってくれて嬉しく思っている。
- 子供への啓発は、親や教師にまで影響を及ぼすので非常に有効と思う。最近では地元小の教職員も加わり、現地草刈り等にも参加してもらっている。
- きちんと説明できるガイドがないのが問題。
- 年1~2回草刈りを行うが十分ではない。いつでもトレッキングが可能なように安全にしておきたいが維持管理が非常に難しい。
- 市役所は佐渡で一番大きな企業であり、各職員が地元に戻って啓発を行えば影響は大きい。
- 登録後も見据え、京町・大工町を次代にどうやって残していくかが課題。
- 活動の核となるリーダーが必要。
- 毎週市役所から様々なパンフが送付されてきており市役所が登録を目指していることだけは知っているが取組の詳細等は全く知らない。
- 相川から隔たっていること等から、前浜地区の住民は全く関心がない。
- 知らない見学者が増えるのは却って不安。
- 女性等ターゲットを絞った現地見学会を実施してはどうか。女性を通じその家族への波及も見込める。

- 講演会等を開催し参加を募るのではなく、行政側がために地元（集落）に出向き説明することが大事。その際、世界遺産登録のためわざわざ集会を開いてもらうのではなく、集落の集まりにお邪魔して説明させてもらうとのスタンスが必要。上から目線はダメ。
- ジアスもそうだが、優れたガイドがない。何故なら若年層は歴史、史跡に関心を持たず、人口も少ない。高齢者は関心があっても体力がもたないから。
- 若年層に関心を持ってもらうためには、フェイスブックを活用すること。新たな発見や、登録の進捗状況の動き等をフェイスブックから発信するのが良い。
- 島内の学校をもっと巻き込むべき。例えば宿根木のHPは小木小学校で作っている。
- 宿根木や相川等「お宝」がある地域が、積極的に情報発信していくことが大事。
- 佐渡の市報等に佐渡金銀山関連の記事が掲載されているが、内容が固くて、一般の住民には理解しづらいと思う。それは「遺跡」が中心で「人」が希薄だからではないか。佐渡金銀山に関わった「人」を中心としたやわらかいコラムだと理解も容易。

## 2.第2回佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会(佐渡地域)

(1)開催日・会場:平成25年3月17日(日)13:30~16:00(於:佐渡島開発総合センター)

(2)出席者:島内の民間支援団体代表、観光関係者、イベント団体代表、教員等8名

### (3) 主要意見:主な意見

- 旧市町村の「垣根意識」が未だ取れていない。世界遺産についても、相川のものといった意識が強い。
- 相川とその他の地域のギャップを解消するには、世界遺産登録が自分たちのエリアに如何なる効果を及ぼすのかを住民に納得させる必要がある。
- 特に重要なのが現地ガイドの要請。「ここだけの話」といった深い内容を話せるガイドが多数必要。
- 集落に出向いてのミニ集会、そこでの意見集約・施策への反映が重要であり、今後こまめな開催が必要。
- 各業者、各地域が金銀山との関係性を探し、それを売りにし、PRしていくことが重要。
- 島内全域で金銀山関連の見所が豊富にあれば、従来の1泊2日が2泊3日となり、地域内での観光消費が増加する。
- 総合的・一元的な情報発信が必要。個々の関係者がばらばらに情報発信しているのが現状。例えばあるイベントを実施した結果がどうだったということ等を様々な関係者が同一HPを通して複合的な視点から発信していくことが重要。そしてそのようなHPの運営は縦割りではなく、「串刺し」で行うことが肝要。
- 観光について言えば、「食」を通して佐渡らしさを打ち出していくことが重要。
- 高級志向の客層も確実に存在することから高く売ることも大事。

- 現在の宿泊施設、カーフェリー・バス台数等の輸送力からすると、現時点では世界遺産登録効果による観光客増に対応出来ない。登録までの4年間をかけて受入体制を整備していく必要がある。
- 観光の中身が団体ツアーから個人ツアーに変わってきており、それへの対応が充分ではない。
- 佐渡観光の流れを地域長期滞在型に変えていく必要があり、そのためには着地型観光(本土側旅行代理店が商品造成を行うのではなく、観光協会(旅行免許有)等地元で旅行商品を造成すること)を進める必要がある。
- 佐渡観光の課題として、輸送力(本土→佐渡のフェリー及び島内移動手段としての2次交通の不足)の問題に加え、「食」及びおもてなしの欠如が指摘される。これには構造的な原因があり、観光雇用の冬季解雇等の不安定な労働環境のため若年層の担い手を確保することが困難なことが元凶。
- 世界遺産効果を佐渡全体に還元させるためには、島内各地域が佐渡金銀山と如何なる関わりがあるのかを理解し、佐渡金銀山の魅力を外から来た人にきちんと説明できる必要がある。
- 佐渡の人たちの視線は島外を向いており、その便利さとの比較で実は佐渡の良さを良く判っていないのではないか。
- 佐渡には面白いものがたくさんあるので、実際に自分の目で見て感じて欲しい。
- 行政とは違う視線も必要。地域のリーダー的な人たちを石見等に派遣することで佐渡のオリジナリティに気づき、それを集落にフィードバックすることも意義がある。
- 宿根木を訪れて実感したが、ボランティアガイドの子供達や周囲の大人達がつたないながらも「あれは自分の家」等と言いながら一生懸命説明しているのがダイレクトに観光客に伝わる。そこで生活する人が本当の価値を理解し、客に伝えるのが一番。
- 観光のスタイルが変わってきている。大型観光バスで来島しホテルに泊まってすぐ帰るといった従来型の観光の時代は終わり、長期滞在の時代。国内外の様々な土地を巡った目の肥えた人が長期滞在するだけの価値・オリジナリティが佐渡にはある。

### 3.佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会(上越地域)

(1) 開催日:平成25年6月2日(日)16:00~17:00(於:上越文化会館)

(2)出席者:上越地域のメディア、観光・交通事業者、直江津地区住民団体代表、行政関係者等11名

(2) 主要意見:以下のとおり

- 北陸新幹線開通と世界遺産登録の相乗効果に期待している。
- 関西から見た新潟のイメージは「寒い、雪、暗い」だが、遠い佐渡に対しては「未知の国、ミステリアス」なイメージで一度行ってみたいところ。現状ではどうしても行ってみようという強い動機付けがないが、世界遺産となれば行ってみようという動機付けになる。
- JRの旅行商品パンフに「新潟・佐渡」と書かれていることから、佐渡が新潟にとって重要な地域。
- 上越では上杉景勝の関係を膨らませて佐渡金山に関心を向けてはどうか。
- 富士山の世界遺産登録効果が観光面で大きいように、登録されれば同じような効果が期待されるのではないか。
- 上越妙高駅から直江津港までのアクセス改善、小木直江津航路の2往復化、高速船導入が必要。
- 石見銀山との差別化が必要。
- 佐渡観光に関して食事に問題がある。
- 船中での時間に改善の必要がある。
- 糸魚川のジオパークと連携し、金、銀、ヒスイといった鉱物関係で女性にもアピールできるのではないか。上越圏域、妙高・長野も含めて活動を進めていけば良いのではないか。
- 地元マスコミ社は各自の方法で佐渡金銀山世界遺産登録に協力する。

### 4.佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会(中越地域)

(1) 開催日:平成25年9月13日(金)14:00~16:30(於:サンライフ長岡)

(2)出席者:中越地域のメディア、観光交通事業者、経済団体、民間支援団体、行政等12名

(3) 主要意見:以下のとおり

- 地元(佐渡)でどういう活動をしているのか伝える必要がある。
- 両津港で佐渡金銀山世界遺産登録への気運が感じられなかった。
- 関わっていた人物など物語をもとに、長岡と佐渡との関係を知らせていく必要がある。
- 全県を挙げての気運醸成について、県内で唯一の世界遺産候補が佐渡しかないということを強力にアプローチする必要がある。
- 観光客増は目先の話であり、世界遺産の目的は後生に残していくこと。
- 最近、高齢者を中心に街道ブームがあり北国街道を歩く方がいるため、街道沿いに声をかけると佐渡金山をアピールできるのではないか。
- 恋人岬、TBSドラマ「高校教師」、良寛と貞心尼で三大ラブストーリーで地元柏崎にもアピールできるのではないか。

- 佐渡自体一丸となる雰囲気を作らなければ、新潟県全体も一丸とならない。
- 佐渡に行きたい人はたくさんいるが、アクセスの問題で断念している。
- 世界遺産に登録されると、観光業者に規制がかかり、気楽に行けなくなるので、まずは佐渡の住民に理解を得る必要がある。
- 本土側としては観光の大チャンス。長岡から見ると、新潟県ナンバーワンの観光地、佐渡とつながっているという宣伝効果が大きい。
- 寺泊航路利用が厳しく、航路を充実させてもらいたい。
- 佐渡ツアーは一般的なコースだけだったが、やわらぎ、鬼太鼓、10月の「芸能の宝島」を打ち出すことにより、対前年比200%増となったので、ここに世界遺産を付加させたい。
- 中越地域ではアイビスを利用したツアーは就航率などの問題で組めず、どうしても新潟港、直江津港のツアーとなってしまっているのが現状。
- 登録された場合、いかに佐渡から長岡に来ていただいて交流人口を増やすかがポイント。
- 県外の人々のイメージは「新潟は佐渡があるところ」。
- 新潟県には文化行政課はもちろんのこと、交通セクション、観光セクションと連携して体制作りをしてほしい。
- 佐渡金銀山の露出度を高めることにより、佐渡の人々も我が町が出ているということで応援する気になるのではないかな。
- 子供へのプロモーションも重要。

## 5.佐渡金銀山世界遺産登録推進懇談会(下越地域)

(1)開催日:平成25年11月26日(火)13:30~16:30(新潟自治労会館会議室)

(2)出席者:下越地域のメディア、観光交通事業者、経済団体、民間支援団体、行政等10名

### (3) 主要意見

- 佐渡だけの話にすると全県に拡がらない。いかに全県に拡げるかが課題。
- 若い人たちにどんな風に魅力を感じてもらえるかが課題。作ったコンテンツを新聞だけでなくネットを通して伝える方法もある。
- 優先順位を付け、見せる情報の出し方を工夫したり、継続的に発信する等、戦略を持ったストーリーの中で伝える必要がある。
- 若い世代には世界遺産登録を前面に出すのではなく、佐渡の魅力を先にして、その後に魅力的な佐渡が世界遺産を目指していますというピーアールの仕方が良いのではないかな。
- 「一番近いリゾート地」という分かりやすい方法でピーアールするのはどうか。
- SNSなどブログに書いてもらうことにより、無料の宣伝になるため、口コミが重要なピーアール手段となる。
- 東京オリンピックに来る客も意識したピーアールが必要。
- 石見銀山の場合、観光客数は登録前よりは増えている。
- 佐渡観光は料金が高いため、エージェントから落とされるケースがある。

- 観光客が佐渡での食に残念がるケースがあり、地産地消の徹底が必要。
- バスの新潟交通、船の佐渡汽船などダイヤ、料金面で一体となってやっていく必要がある。
- 3月10日の「佐渡の日」をクローズアップしてほしい。
- 観光客の減少により廃業になる宿泊施設を、登録時に地元人、県外客、外国人のバックパッカー用に手直しできないか。
- 小学生の佐渡修学旅行が多いので、宿泊先のホテルで分かりやすく講演会をやれば見方も変わるのではないか。
- 出前講座の案内を中学校やPTAに積極的に出した方が良い。
- 北陸新幹線が開通すれば、新幹線の駅は新潟県が最も多くなる。新幹線を活用して上越から佐渡に行って新潟から帰る、あるいはその逆の旅行商品開発が展開できるのではないか。
- 村上にも鳴海金山があり、佐渡金山と鳴海金山はなにがしかのつながりがあると思うので、金山同士連携できないか。
- シンポジウムの内容が、学術面が先行して非常に内容が難しい。
- ジアス、ジオパーク、世界遺産と三つ巴として相乗効果があるのではないか。
- アクションプランには観光、ターゲット、マーケティングをきちんと精査していくと観光で成功を収めるのではないか。
- 合併以降まちまちであった看板を併用しながら統一を図っているが、子供も読んで分かる統一した道しるべであるべき。
- 関西の一般消費者1000人に新潟のイメージについてアンケートをとったら、米、雪、佐渡であった。
- 来春のDCの機会も活用したい。

## 6.平成25年度 相川地区座談会(地域住民対象)

(1) 開催日:平成25年4月、8月、9月、10月、12月

### (2) 主要意見

#### 4月

- 空家や危険家屋（空家の老朽化）の増加が問題。空家対策を講じる必要がある。
- 町並み保存の具体的な方針と手法を知りたい。
- すでに観光地化されている佐渡が世界遺産になることのメリットは何か。
- まちなかを歩く観光スタイルに合わせた整備が必要。
- 昔ながらの坂道の風情が失われないような整備が必要。

- 鉾山が栄えていた時代の姿に町並みを戻すべき。
- 商店街に観光客を誘導できるかどうか気になる。
- 協力はしたいが何をしたいのか分からない。
- 観光客を満足させるための町並み整備が必要。
- 整備しすぎるとつまらない町並みになってしまう。
- 世界遺産を身近に感じない。
- 地元の人、世界遺産に関心をもっていない人がほとんど。
- 行政は住民の考えを把握できていない、一体感が不足している。
- 景観への配慮が必要（ゴミ箱の設置位置、電柱の色など）。

## 8～12月

- 地元の建築業関係者への説明を徹底すべき。
- まちの活性化のよいきっかけになる。
- 観光や商売目的ではなく、まちの人が誇りを持つための世界遺産。
- 世界遺産登録には賛成だが、何をしたらいいのか分からない。
- ガイドラインを分かりやすく示してほしい。
- 景観に配慮してばかりいると、寂しい印象のまちになるのでは。
- 皆、初期に比べて関心が薄れている。
- イベントを催しても関係者が頑張るだけで、まち全体の盛り上りにならない。
- リーダーシップをとれる熱心な人がいない。
- 後継者がいないので家の維持管理を心配しているお年寄りが多い。
- 昔は観光客がまちなかを歩いていたが、今の観光客はまちを歩かない。
- 横の連携が必要（役所、商店街、商工会、旅館組合など）。
- 外から来た人の意見は重要。
- 若者ががんばってほしいが、若者がまちを出ていくのは時代の流れなので仕方ない。
- 鉾山に由来した町並みや路地の雰囲気など、全体の風情を守るのが重要。
- 自宅を伝統的な姿に修理したい気持ちはあるが、費用が気になり。
- 空家を伝統的な姿へ復原してはどうか。
- 景観を阻害する電線・電柱はない方がよい。
- 相川で生まれて良かったが、当たり前すぎて気づけないこともある。相川の残すべきところ、変わってもよいところを分かりやすく示してほしい。
- 県市の職員がまちを歩かない。行政が現状を知り、住民との距離を縮めることが必要。